

ロシア二頭権力体制の現況
(2009年4月講演の主要項目)

1. 二頭体制に関する一般の疑問

- ・実質的な権力者はどちらか？
- ・プーチンはなぜ首相になったのか？
- ・プーチンはなぜ「統一ロシア」党首になったのか？
- ・憲法改正はプーチン早期復帰の準備だったのか？
- ・高いプーチン人気（支持率）の意味は？

2. 二頭体制の性格をどう見るか

対立（択一）論的な見方

- ・プーチン支配論：KGB 的暗黒支配。
犯罪集団の頭領的存在。
シロビキを支配。
- ・メドベージェフ傀儡論：弱いから後継に選ばれた。
→ 治安、外交はプーチンが掌握。
→ 早期に大統領に復帰。
- ・最近になり、メドベージェフ台頭説が出て来た。

協調論的な見方

- ・同じチーム内のリーダー役交代。
- ・基本的了解と協調、役割分担。
- ・メドベージェフは自立性の強い人物。
- * 理解のポイントはプーチン人物像・・・
- ・利権で支配する独裁者、頑迷な国家主義者か
- ・古い体質だが常識的、不決断な利益調整者か

3. プーチンの功罪

ロシア国家にとって、

功：

- ・エリツィン時代の無政府状態を解消
- ・自立的対外政策を回復

罪：

- ・治安・司法機関の汚職体質悪化
- ・国防力の弱体化
- ・製造業崩壊 ← 経済「音痴」

4. プーチンはなぜ首相になったのか？

- ・大統領交代で変わらなかった点と変わった点
- ・首相になる気はなかった？
- ・上級首相プーチンと平首相シュワロフ
- ・「プーチンプラン」の明るくて楽な展望

5. 二頭体制の機能状況

- ・首相の憲法上の地位・権限の回復
- ・首相による大統領権限事項の侵蝕は観察されていない。
- ・スタッフ間、支持者間の競い合い（戦略合戦）はある。

6. 安全保障&外交と二頭

- ・安全保障分野は大統領主導
- ・グルジア戦争は大統領が指導
- ・軍改革は勇気ある政策。
- ・戦略核優先方針に転換。
- ・プーチンは外交の主役でも黒幕でもない

7. 憲法改正と二頭

2008年11月5日の大統領教書で提案。

* 任期延長の目的 = 「揺るがすことの出来ない基本的価値」の実現：

・ 国家権力の集中緩和、社会制度・機構と政治制度のヒューマン化、公正な裁判など。

・ 自由と民主主義への動きに、より高い権威が必要

・ 推進の主体は大統領と国家院

8. シロビキとメドベージェフ

FSB への影響力の弱さが弱点とされてきた。

- ・ 裁判所、法務省、執行官局、最高検はメドベージェフの影響下にある。
- ・ 反体制紙記者と弁護士殺害事件の関連で異例の会見。治安機関の陰謀への牽制か・・・(プーチン時代の状況への反省)
- ・ 検察予審総局人事で指導力。

9. 人材プール制と二頭

大統領人材プール 1000 人リスト

- ・プーチン流人事の克服へ。
プーチン流：サンクト偏重、KGB 旧同僚偏重、人材登用の仕組なし。
- ・セーチンらの圧力を躲しやすい仕組
- * 長期的には閥解消も。

10．経済危機下の二頭体制

経済危機はプーチンの影響力を揺るがす。

- ・プーチン型政治スタイル（バラマキ、win-win 的調整）が通じなくなった
- ・にもかかわらず、スモーリヌイ閥の創始者としての権威は維持。
- ・メドベージェフの経済政策関与拡大中
- ・「危機対策プログラム」（3月20日発表）はリベラル色。
- ・製造業（国防産業）近代化政策は後退。
- ・リベラル派は07年の後退を挽回中。
- ・軍産ロビーとのせめぎ合いはこれから。
- ・ロビー圧力は主としてプーチンに向かう